

日本臨床化学会企業シンポジウム 履歴

履歴

年度	回次	テーマ	座長	内容
2023	18	医療の質を支える腸内細菌叢 ～もう一つの臓器に迫る～	宮田 満 (株)宮田総研、(株)ヘルスケアイノベーション) 岩崎 陽介 (シスメックス株式会社)	1. 亀山 恵司(味の素株式会社) 「肥満を悪化させる腸内細菌とそれに感染するバクテリオファージ」 2. 福田 真嗣(慶應義塾大学先端生命科学研究科) 「腸内環境層別化による新たな医療・ヘルスケア」 3. 植松 智(大阪公立大学大学院医学研究科 ゲノム免疫学研究室) 「腸内細菌のメタゲノム解析を基盤とした疾患診断法と新規治療法の開発」
2022	17	異分野連携による長寿社会への挑戦 ～ヘルスケアエコシステム構築への取り組み～	宮田 満 (株)宮田総研、(株)ヘルスケアイノベーション) 中沢 隆史 (株式会社日立ハイテク)	1. 福本 高大 (小林製薬株式会社 日用品事業部 新分野推進G) 「香りを嗅いで認知機能を評価 ～嗅覚と認知機能の関連性について～」 2. 大黒 聡 (旭化成ファーマ株式会社 領域マネジメント部 新事業企画) 「骨粗鬆症の疾患啓発(DTC)の取組み ～みんなが当たり前のように骨の検査をする世の中を目指して～」 3. Luis Carbonell (MagArray, Inc.) 「Bringing Semiconductor Sensor Technology to Medical Diagnostics」
2021	16	次世代臨床検査への企業の挑戦 ～企業が描く未来図～	宮田 満 (株式会社 宮田総研) 河野 麻理 (シスメックス株式会社)	1. 奥田 忠弘 (アボットジャパン合同会社 診断薬・機器事業部) 「検査医学の将来と診断支援」 2. 坂元 琴子 (栄研化学株式会社 マーケティング推進室) 「新型コロナウイルスのLAMP法試薬の開発」 3. Lucy Lum Chai See (Dept of Pediatrics, University of Malaya, Kuala Lumpur Professor) 「顧みられない熱帯病、デング熱への取り組み」
2020	15	救急医療	宮田 満 (株)宮田総研) 中沢 隆史 (株式会社日立ハイテク)	1. 坂野 誠治 (旭化成ゾールメディカル) 「ゾールメディカル社による救命医療機器の開発」 2. 今 明秀(八戸市立市民病院) 「劇的救命を支える先端技術」 3. 小林誠人(公立豊岡病院但馬救命救急センター長・顧問) 「チームで行う救急医療～多職種連携こそが命を救い上げる！～」
2019	14	現代人の病気に迫る最新技術	宮田 満 (株式会社 宮田総研) 阿部 義彦 (富士フイルム株式会社)	1. 村上 淳(アークレイ株式会社) 「HbA1c測定における性能向上に関する取り組み」 2. 吉川 元起(国立研究開発法人物質・材料研究機構) 「嗅覚センサの総合的研究開発」 3. 柳沢 正史(筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構) 「睡眠覚醒の謎に挑む」
2018	13	リキッドバイオプシーが変えるがん治療	宮田 満 (日経BP社) 小川 和彦 (アークレイマーケティング株式会社)	1. 松崎潤太郎(国立がんセンター研究所) 「ここまでわかる血中マイクロRNA診断」 2. 沖田規幸(ロシュ・ダイアグノスティクス(株)) 「血漿検体を用いたcobas Mutation Test v2.0の技術的特徴と今後の期待役割」 3. 田中 賢(九州大学) 「生体親和性合成高分子による血中循環がん細胞(CTC)の分離回収技術」
2017	12	人口知能AIが変える未来の診療	宮田 満 (日経BP社) 森 篤雄 (ニッポンジーン株式会社)	1. 大沢哲(フジフイルム) 「医療分野でのAIの活用 画像診断システムの開発」 2. 高野敦司(日本IBM) 「医療分野におけるAI活用事例」 3. 東條有伸(東京大学) 「AIを用いた白血病診断技術」
2016	11	システム生物学が変える医療	宮田 満 (日経BP社) 河野 麻里 (シスメックス株式会社)	1. 菅我朋義(慶応大学) 「メボロームが明らかにした癌戦略戦略」 2. 中山敬一(九州大学) 「次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新天地」 3. 宮田満(日経BP社) 「システム生物学が医療や健康をどう変えるか」
2015	10	診断と治療の未来を探る -先制診断 医療とバイオバンク-	宮田 満 (日経BP社) 松尾 雄志 (京都大学)	1. 福岡秀興(早稲田大学) 「胎生期低栄養環境と生活習慣病」 2. 田中弘一郎(藍野大学) 「先制医療のターゲット疾患と医薬品開発の現状」 3. 齊藤邦明(藤田保健衛生大学) 「健常時からの層別的バイオバンクの活用」 4. 桜井雅史(京都大学) 「IT基盤の先制診断」 5. 宮田満(日経BP社) 「国内外のバイオバンクの現状と課題」

2014	9	診断と治療の未来を探る -その鍵は臨床化学にあり-	宮田 満 (日経BP社) 植田 成 (旭化成ファーマ株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 木村真文(京都大学IPS研) 「臨床化学の未来とiPS細胞」 2. 糸川昌成(東京都医学総合研究所) 「代謝疾患としての統合失調症研究」 3. 西原達次(九州歯科大学) 「新たな歯周病診断法の開発」 4. 佐々木常雄(東京都駒込病院) 「実臨床からみたがん化学療法における個別化医療」 5. 日比野仁(中外製薬) 「臨床研究を通じたバイオマーカーの深索と確立」
2013	8	頭上のリンゴを貫くには 「分子標的治療薬 基礎と臨床」	宮田 満 (日経BP社) 川野 克己 (株式会社SRL)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 木村晋也(佐賀大学) 「分子標的薬を用いた治療の実際」 2. 成宮周(京都大学) 「産学連携による創薬」 3. 曾我朋義(慶応大学) 「メボロクスによるがんの代謝解析」 4. 佐谷秀行(慶応大学) 「がん幹細胞を標的とした治療戦略」 5. 宮田満(日経BP社) 「分子標的薬の開発トレンド」
2012	7	「健康との対話」～Population approach～	宮田 満 (日経BP社) 川野 克己 (株式会社SRL)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 抗加齢トクテータから見た高齢者における健康上の問題点と改善ポイント 2. ライフステージにおけるカロノイドの健康への寄与 3. 唾液に夜総合的な口腔検査法の開発多項目唾液検査システム 4. 「健康をはかる」生活習慣病への取り組み 5. 男性特有の皮膚老化現象とアンチエイジングスキンケア
2011	6	ニューテクノロジーは 臨床化学の新しい地平線を拓く	宮田 満 (日経BP社) 川野 克己 (株式会社SRL)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 藤原正明(株式会社イム・バイオサイエンス) 「Treg細胞を用いた新規抗体作成法」 2. 伊藤俊幸(シーメンスヘルスケア) 「新しいイムノアッセイLOCI法」 3. 芝崎太(財東京都医学総合研究所) 「iM/PCRの臨床応用」 4. 佐藤太(日本ウォーターズ) 「最新の質量分析計を用いたプロテオーム解析」 5. WENTWORTH Noel(bioMerieux Australia Pty) 「質量分析マトリックス支援レーザー脱離イオン化質量分析法」 6. 西野憲和(九州工業大学) 「プロテオーム活性測定の実験診断への応用」
2010	5	オミクスから派生、 具現化したプロダクトの現状と将来展望	宮田 満 (日経BP社) 福永 健一 (株式会社協和メデックス)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 西達也(株シナリス) 「ヒトゲノム解析に役立つ次世代シーケンシング対応ゲノム解析クラウドサービス」 2. 松浦正(株ヘルセウスプロテオミクス) 「オミクスから生まれた新しい炎症マーカー」 3. 梶川益紀(株ACTGen) 「シグナルシークエンストラップ法を用いたモノクローナル抗体シーズの深索」 4. 大橋由明(ヒューマンメタボロームテクノロジーズ) 「メボロミクス技術に臨床診断マーカー開発」
2009	4	抗体医薬と検査薬の今、そしてこれから	宮田 満 (日経BP社) 福永 健一 (株式会社協和メデックス)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 設楽研也(協和発酵キリン) 「医療用抗体のADCC活性増強技術」 2. 浅野寛道(シーメンスヘルスケア) 「乳癌の分子標的マーカー 血清HER neu」 3. 小野健一郎(株医薬生物化学研究所) 「人ロリハ筋を用いたモノクローナル抗体」 4. 林順(大阪大学) 「マウスによる短期高価抗体作製の実用的意味」
2008	3	予防医療、新技術、そして検査への統合	松尾 雄志 (NPO日本食品安全協会)	<ul style="list-style-type: none"> 1. イメージング検査 2. IVD治療の現状と問題点
2007	2	ハイテク医療へのアプローチ 新技術のインパクト	今井 恭子 (株式会社日立ハイテクノロジーズ)	<ul style="list-style-type: none"> 1. Le Sun(Welson Pharmaceuticals,Inc) 「Drug-mAB Immunoconjugates for Therapy」 2. 渡慶次学(マイクロ化学技研) 「μTASによる臨床診断」 3. 浦田康生(オンコリスバイオファーマ) 「テロメシキンの基礎と応用」 4. 阿部正紀(東京工業大学) 「医用磁性ナノビーズの作製と診断・治療への応用」
2006	1	臨床化学の将来: バイオベンチャー新技術のインパクト	松尾 雄志 (オリエンタル酵母工業株式会社)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 中島俊洋(シエノミディア株) 「先端医薬品デリバリーシステム」 2. 安達宏昭(株創晶) 「異分野連携から生まれた革新的な結晶化技術」 3. 湯野川春信(株メッセンジャースケープ) 「高感度遺伝子発現プロファイルHiCEP」 4. 芝崎太(シセラテクノロジーズ) 「高感度同時多項目アッセイ法 MUSTag Inside」 5. 宮田満(日経BP社) 「バイオベンチャー VS 臨床化学」